

## G9勝手連N郎♪さんへのインタビュー

2016/1/23

日本共産党浦和区後援会

編集部では2016年1月23日(土)17時30分から浦和区にお住まいでミュージシャンのN郎さんにインタビューしました。N郎さんは伊藤岳さんの勝手連を引き受けるなど戦争法廃止のための活動も多方面で活躍されています。N郎さんに岳さんとの出会いや応援歌のこと、ご自身の歌のことなどを話していただきました。



熱く語ってくれたN郎♪さんです

編：本日はどうぞ宜しくお願いします。寅次郎さんも昨年12月のうらわ宿に登場していただきました。お知り合いだそうですね。

N：はい、寅次郎さんには昨年2月に私の番組に浦和スタンディングのみなさんと一緒にゲスト出演いただきました。寅次郎さんの活動のきっかけとなった越谷のパクちゃんには以前大変ご支援いただいたことがあり、そのつながりにびっくりしました。

編：今回のインタビューはミュージシャンのN郎さんということで、私達としてもこれまでにない異色な内容になりそうです。初めにN郎さんのプロフィールをお願いできますか。

N：出身は青森県の五戸町というところです。高校は八戸で、平成になった頃、埼玉大学工学部建設工学科に入学しました。4年いましたが音楽／読書／サイクリングなど、好きなことばかりに熱中し、残念ながら卒業はしていません。しかし当時の埼玉大学はまだま

だ自由な雰囲気があって、この大学に入って本当に良かったと今でも思っています。両親に感謝しています。大学ではB F G A、ビギナーフォークギターアソシエーションというサークルに入って、むつめ祭など人生最高の思い出となりました。埼玉大学は結構音楽活動が盛んで、ロック研究会とか、LMS とか色々あったのですが、うちのサークルは私が入った頃ぐらいからバンド演奏も盛んになり、その後、かなり大きなサークルとなったようです。後輩から結構有名なミュージシャンも出ています。ウラニーノというバンドや岩船ひろき君はこのサークルの後輩にあたります。岩船君とは西川口H e a r t s というライブハウスで一緒に演奏したこともあります。

**編：**えー、そうだったんですか。岩船さんは埼玉の安藤ゼミとの繋がりもあり知っています。緑区の集会にもきてくれたことがありますね。

N：西川口H e a r t s は現在埼玉の若手アーティストが育って行く場所となっていて、世代の離れた彼らともそこで繋がりました。浦和には残念ながらそういう場所がありません。H e a r t s はもともと大宮にあったのですが西川口に移転し、岩船君も、ウラニーノも、Y K J という川口の人気バンドも、H e a r t s で育っていったと思います。埼玉大学中退後、本格的にボーカルの勉強をするため代々木にある福島英先生の「ブレスヴォイストレーニング研究所」の門を叩き、数年間通ってヴォーカルの基礎を学びました。しばらくはアウフヘーベンというバンド中心に活動していて、今も続いています。メンバーも仕事で忙しく、なかなか思うように活動もできないため、2007年頃から「N郎♪」という名前でソロでも活動を始めました。東京や埼玉でライブ活動をするようになりましたが、2008年に秋葉原に秋田犬（あきたいぬ）というアコースティックギターのライブハウスに出演するようになり、その秋田犬のオーナーである作曲家の馬場孝幸さんとの繋がりで、現在、毎週すみだリヴァーというU s t r e a m のライブ番組のパーソナリティーを務めています。馬場孝幸さんは、1980年代にめちゃくちゃ売れた作曲家で、哀川翔さんや、w i n k、中山美穂さん等多くの歌手やグループに曲を提供してきた方です。60代半ばを過ぎた現在でもシンガーソングライターとして精力的に活動をされている方で、毒舌とジョークを交えた話も面白い方です（笑）。長年やっているブログと番組の効果もあり、沖縄から北海道まで全国に支援してくれる方ができました。

**編：**浦和ではライブはやれませんか？

N：各地で演奏をしながら、なんで地元でこういった活動ができないんだろうと思う時がありますね。地元ですので是非やりたいのですがなかなか適当な場所がなくてできません。ただ大宮では土曜日の夜中に路上演奏を定期的にやっています。大宮駅東口の商店街、10時頃です。自分はそれを「大宮ナイト」と名付けていて、土曜の夜の街ゆく人たちとの会話など、楽しいですね。

**編：**いろいろお手伝いできるところは協力したいと思いますので是非浦和でも企画しましょう。さて、勝手連でご活躍されているお話をお聞かせ願いたいのですが、伊藤岳さんとの出会いはどんな所から始まったのですか？

N：はい。私が普段主張していることと、共産党さんの主張は近いので、これまでも選挙では共産党さんに投票してきました。伊藤岳さんとはツイッターでは繋がっていましたが、直接的にはV I P 埼玉がきっかけです。昨年夏の戦争法案反対の運動の中で、私もU s t r e a m の番組で全国の若者デモの方々を紹介したり、ネットで若者デモを支援していましたが、地元で若者デモがあることを知り、V I P 埼玉に連絡を取って番組にゲスト出演

いただきました。その時、VIP埼玉の芦野君から、大宮デモで使う何か適当な音楽はないですかと言われ、急遽音源を作成し、提供しました。そういった繋がりがあった後、岳さんを応援している芦野君から逆に自分に連絡があり、勝手連に参加することとなりました。それとは別に、戦争法案が衆議院を通過する際、浦和の名誉のため憲法違反の法案には反対票を投じて下さいと、自民党の村井さん、民主党の武正さん、そして共産党の伊藤さんにツイッターでメッセージを送りました。有権者として。

**編：それは凄いですね。反応はどうだったのですか？**

N：何度やっても村井秀樹さんからは何の返答もありませんでした。反応があったのは、伊藤さんだけです。それをきっかけにツイッターで伊藤さんとやり取りしました。伊藤さんはVIP埼玉が番組にゲスト出演したことを知っていて、あのN郎さんですか！と驚いていました（笑）。ネットの威力は凄いものがあります。

**編：本当にネットの威力は凄いですね。勝手連はどういう方がやられてるんですか？**

N：勝手連の正式名称は「G9サポーターズ＋Nowar」です。発起人は矢野さんという方で、もともと山本太郎さんを応援されている方ですが、今回は伊藤岳さんを応援し、支持政党を越えて、埼玉県から戦争法廃止、安倍政権の暴走ストップの声を広めていきます。他にママの会の方やお医者さんなどいろんな方がいます。本田宏先生が名誉会長です。昨年末の望年のつどいには50人程が参加しました。

**編：事務局はあるのですか？**

N：上尾の吉村しのぶさんらがやってくれています。2月14日には浦和に事務所もできるので、これまで以上に情報発信ができるようになると思います。

**編：勝手連の反応はいかがですか？**

N：最初はそうでも無かったですが、徐々に参加する人が増えてきています。ただ、同じ反戦を掲げながら浦和で市民運動をやられている方々の共産党さんへの距離は感じます。最後は応援するようになるとは思いますが。

**編：そうですね。9条を守るとか立憲主義を守るという戦いで集まるのがまずあると思いますが、民主主義がどう育てていくかということで大事な役割があると思いますね。**

N：しかし先日の緑区での講演会で、小林節さんの「埼玉では伊藤岳を支持します。伊藤岳を男にしてよ」発言の影響は大きく、あれで流れが変わって来たと思います。共産党が組もうよと言っているのに、民主党が断っているのを市民は見ています。これは大事なことです。

**編：N郎さんの伊藤岳さんについての印象は如何ですか？**

N：いやあ、岳さんのあの気配りは素晴らしいですね。人として誠実で信頼できます。政治家にとってもっとも必要なことだと思います。岳さんは十分備えた人です。

**編：ライブでは政治的なことを話す時も多いのですか。どういうことを話されるのですか？**

N：そうですね。政治的というよりは歌詞の背景として話すことが多いですね。平和について、戦争について、原発もそうです。学生時代からそういう内容の歌を歌ってましたから私にとっては自然なことです。ずっとそういったことは考えてきました。

**編：N郎さんのそうした原点はどこから来ているのですか？**

N：学生時代にジャーナリストの本多勝一さんの影響を大きく受けました。その当時書いた曲には、第一次湾岸戦争や天安門事件を歌詞にした曲もあります。原発についても福島第一原発の事故が起きるずっと以前から、予測を超えた地震による原発事故の危険性や放

射性廃棄物の行き場がないこと訴えた歌詞も書いてきました。歌詞で訴えたことが現実となり、ショックです。

**編：全てN郎さんご自身の作詞、作曲なのですか？目指すところはどんなことですか？**

N：曲は基本的にすべて自分で書いています。バンドメンバーとの共作もあります。目指しているところは・・・歌で表現の可能性を追求することですね、社会的なこと含め。自分の代表作に「Once」という曲がありますが、2008年から2009年にかけてイスラエル軍がガザに侵攻した際、世界はガザの人たちを見捨て、驚きました。その不条理を歌詞に含め、平和への祈りのようなものをテーマとして書きました。今こうした歌を誰も書きませんね。自分が観てきた限りライブハウスなどでは誰ひとり歌ってない。もちろん知識がないと作れませんが、皆そこまで足を踏み入れようとしません。でもJ。レノンや忌野清志郎のような偉大な先輩がいるではありませんか？なぜ彼らに学ぼうとしないのか。

**編：ところでカラオケなどにも行く時はありますか？**

N：はい。浜田省吾さんは昔から好きだったのでバンドの仲間と「浜省しばり」をやったりしてました（笑）。演歌やシャンソンも歌います。18番は「愛の讃歌」や「また逢う日まで」。ヴォーカルの師である福島先生は、日本人はシャンソンやカンツォーネを練習曲として歌うといいと話していて、当時シャンソンやカンツォーネの曲をたくさん歌いました。山下達郎さんの曲もよく歌い、声の出し方など参考としてきました。

**編：最後になりますが、今年の目標は何でしょうか？**

N：生活者として伊藤岳さんには当選してもらわないと困ります。そのためにも、「作ろう未来、埼玉」～伊藤岳を応援するテーマ、これを埼玉県で大ヒットさせることですね。秩父困民党や熊谷空襲の悲しい歴史、荒川や関東平野の雄大さも歌詞に採り入れています。この歌で埼玉県を盛り上げていきたいですね。

**編：音楽によって広がりを作っていくって本当に素晴らしいことですね。後援会としても是非N郎さんの歌を広めて行けるようPRさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。**

N：ありがとうございました。

記事に出ていた、N郎さんのCD、ブログ“N郎♪‘sCafe”、Ustreamレギュラー番組は次の通りです。

○CD 「FINE DAYS SONG」 ¥1,500。オンラインショップ、全国お取扱店で発売中です。

○ブログ：N郎♪‘sCafe は、“N郎”と入力すると見れます。

○レギュラー番組、ぶちFM897すみだリヴァーは毎週木曜22時～「N郎ON AIR ラベンダーな夜」



インタビューの光景・・・浦和でのラベンダーな夜でした。